３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森

不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.492-493

CONE全国フォーラムで事例報告

【定例活動報告】小原本陣の森

第１日曜日の活動より

　林野庁とNPO森づくりフォーラム森林社会学研究会主催で森林環境税に関するセミナーが東大弥生講堂で開かれたので、川田代表と同行で参加した。「どう使われる？どう活かす？森林環境税と市民参加の森づくり」のテーマでの開催だ。社）CSV開発機構専務理事の小寺氏、学術面から上智大学教授柴田普吾氏、NPO森づくりフォーラム代表内山哲氏、林野庁永井壮茂しの皆様の講話があった。

　内容としては、森林環境税が5年後から始まるが、どう使うのが最も好ましいかについて討議検討する勉強会であった。森林環境税は年間約６００億円が税金で賄われるが、日本の循環型社会にどう活かせば良いか？との事で、各団体の

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。

方より意見が延べられたという構造であった。林野庁としては大筋の実施計画は腹にあるのだろうけど「今は言わない」という姿勢である。一応の打開策として最初の環境税の600億円を取り崩し（前借りして）来年度から順次実施検討しようという提案である。（提案と言っても実施されるが）その表れとして、国有林の順次払い下げ法案が可決したことが実例である。善良な？市民団体に国有林を払い下げ有効かつ効率的に国民生活に活かすというものである。事実私の知人は払い下げの手続きを行っているという事だ。今後,我々の団体にどう関係してくるか注目して頂きたいと思います。

セミナー終了後、近くの飲食店で懇親会が行われた。私は川田代表に野球部の練習場であるグランドを案内してもらった。意外に外野フェンスが近いのが印象的だった。

第３日曜日の活動より

天候が不安定な中、多くの会員が集まり活動をした。知足の森（小原）を整備測量している学生諸子の皆様と基地（嵐山）の最後のNOVAの小屋の解体に分かれて活動。

森林整備は8名（NOVA4名）で開始したが、説明書が手元に無いため皆で検討したが、解体後再組み立てができる状態に解体作業を丁寧に行うか、兎に角解体目的のみとするかで分かれたが、午後からの総会出席という時間の制限もあるため中間の極力痛みの少ない方法で解体を進めることに方針を定め進めた。屋根は問題で怪我の無いようきれいに解体するために、まず壁から破壊を少なくした方法で解体し、柱だけを残し、屋根を残したまま蹴り倒す方法を選んだ。

これは、乾燥小屋の解体経験が生かされたもので、以外に簡単にしかも短時間で作業を終えることができた。屋根は丸ごと残っているので、再組み立ての場合は再利用可能な状態で保管された。多少時間が有ったのでお花畑の残骸等の整理もできた。以上で長年お世話になった嵐山の基地の撤収は95%完了したことになる。梅雨時期でもあり、雑草草木の成長が早く、基地が元に戻るのを見るにつけ自然の生命力の逞しさと、人間の造形物のはかなさで込み上げてくるものがある。

20年以上我々を支えて頂いた鈴木家の皆様関係者の皆様、嵐山に関わられた緑のダム北相模の会員の皆様に心から感謝の念でいっぱいです。ありがとうございました。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

第１日曜日の活動より

今回の定例活動は、高校生６、大人４の少ないながらも作業は進むという法則通りの一日。知足の森の広葉樹林のコナラの数の間伐。小径木はこれまでの初参加者を中心に作業を進めて来たのでだいぶ減らしてすっきりしてきた部分で残った太めの木の作業。スギやヒノキと違って、コナラなどの広葉樹は重いので、最終的に並べたい向きにそのまま倒す、という練習に挑戦。重い上に硬いので、チェーンソーの刃もあっという間に切れなくなっていきます。みるみる切れなくなっていくのがわかるくらい。そこでロープで誘導する割合を増やし、しっかり作業道沿いに落とす練習を。慎重に作業を進めたので本数は多くなかったのですが、無事に作業を完了。初めて参加してしてくださった古幡さんにもたくさん作業していただきました。またの参加を。

宮村　連理（本会、副理事長）

今回は初めて森林整備を体験させて頂きました。現在アウトドアを軸としたインターネットサービス等を運営している会社でCSR系の業務を行っており、社会問題、特に森林整備に関する問題に話題として触れる機会も多いです。その問題についての概要は理解していながらも実際に現場を見て活動することは、理解を深める非常に良い機会となりました。放置され荒れた森も正しく手入れをすれば蘇るというビフォア・アフターを見れたことも有意義でした。国土の7割が森林で4割が人工林、林業が衰退し健全な森を維持するには一部でこういう活動がもっと広がらなければなりません。緑のダム北相模さんの活動は実践的だけでなく中高生の環境教育の実践場所としても取り組んでいることが素晴らしく、同様のモデルが広がっていくよう何かできることはないか考えるきっかけともなりました。今後も機会があれば参加したいと思います。

古幡　浩史（株式会社スペースキー）

第３日曜日の活動より

今回も初参加者が数名いたため、まずは森の西側の未間伐の小径木の間伐。とはいえ参加者は16名と大所帯。一人一人で間伐できるレベルの木が多いのでその後、数人チームに別れて作業を継続。はじめて参加してくださった小金井市公民館の伊藤さんも間伐に挑戦。その達成感に満足していただけたようです。午後からはフォレストノバが取り組む森の測量。今回のために公図を取り、これまでのデータとつき合わせてみるとGISとも合わない部分があるので、そこを埋める調査を実施しました。隣の地主さんとの境目いはわかっていたので、そこに打ってある杭から調査開始。GISで取ったデータと比較しながら、まず東に５０mほど移動開始。ただし、いきなりの急斜面でほぼ全員がルート上の草を刈る、フォレストノバから指示がでる、ちょっとずれたらまたそこの草を刈る。そんなこんなでなんとか目的地に。やはりそこも植え方が特徴的で、境界線の可能性大。次回までにデータを精査し、次回は杭を打ちたいと思います。

宮村　連理（本会、副理事長）

８月４日開催 小金井市公民館貫井北分館「こがねいの若者による森と居場所づくり」講座の実地踏査として、長福寺の間伐作業に参加しました。２から３人のチームに分かれて、先ずは森全体を見ながら、間伐する木を選び、次に倒す方向を決め、いよいよ伐採。周りの安全を確認し、切った木にロープをかけ、声を掛け合いながらロープを引っ張り、木を倒す作業を通してチームワークが高まる様子が伺えました。

私自身、ノコギリを使って、初めての伐採。木が倒れた瞬間、普段の生活では感じることができない達成感・充実感を味わうことができました！間伐された森に陽がとどき、明るさを取り戻した森、参加者も木々も息吹を感じたような気がしました。

作業をしながら感じる森の風も香りも心地よく、２本目の木を倒す頃には鳥の声にも耳を澄ませる余裕も出てきました。

この活動が未来につながることもご常連の参加者から教えていただきました。この達成感・充実感をぜひ、「こがねいの若者による森と居場所づくり」講座の参加者に体験して欲しいと思いました。

伊藤　智代子（小金井市公民館貫井北分館　副分館長）

桜井尚武の森のコラム

「シデ類(*Carpinus Spp.*)」

図1. クマシデ

20150919小淵沢

図2.イヌシデ

20181004汐入公園南千住

図3. サワシバの葉

20070718丹沢

図4. イヌシデの樹皮模様

20171124小石川植物園

クマシデ属は日本に5種あります。低山地帯に普通に分布します。乾燥地形にはクマシデ(*C. japonica*)、中庸地形にイヌシデ(*C. chonoskii*)、湿潤地形にサワシバ(*C. cordata*)、どんな立地にも出現するアカシデ(*C. laxiflora*)、そしてイワシデ(*C. turczaninovii*)です。このうちイワシデは中国地方、四国、九州の岩場の多い地帯に分布するといい、関東地方ではみられません。

クマシデは葉脈数が多い（図1）、イヌシデは葉の表裏と葉柄に毛があり葉脈数はクマシデより少ない（図2）、アカシデは葉が小さく葉柄が赤みを帯びていることが多い、サワシバは葉脈が多いがクマシデより幅が大きく丸みを帯びており葉の基部はハート型になるものが多く（図3）水分条件のいい沢筋に多いなどで識別できます。カバノキ科ですが他属の樹種と異なり樹皮に灰白色の縦に流れる何本もの灰白色の筋状の模様があるのが特徴です（図4）。

過度の伐採収穫などの攪乱を受けて土壌が薄くなった場所に多く生じる植生で、薪炭材としての質は劣りますが重要なエネルギー源です。狂いやすいという欠点のある材ですが硬く丈夫なので建築材や家具器具にも重用されたといいます。

この樹種の名前はその下垂する果穂が神棚や注連縄に垂らす「四手（紙垂）」に似るからといいます。「木綿（ゆう）」というものがあります。楮（こうぞ）の皮を剥いでその繊維を蒸し、水に晒して細かく糸状に裂いたもので美しい白色をしているものと日本大百科全書にあります。幣帛（へいはく）としてサカキの枝にかけて神事に使うものですがこの幣（ぬさ）をシデとも読みます。紙幣にも幣の字を使いますが、大事なものの意味が込められていて、シデにおごそかさを感じます。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

小原本陣の裏手を歩く道筋の整備

今回の活動は小原地域で課題となっている木の伐採作業を行うため、小原の本陣の裏手を歩く道筋のフィールドを整備しました。小原本陣の裏を

歩いて行く道筋は嵐山方面を一望でき、相模湖から下る川も見える等、景観の良いエリアです。

その奥には萩山があり、2.3年前に私たちが整備を完了した場所につながっていきます。

さらに歩いて行くと四阿があり、今後緑のダムと、我々の集会場所になりそうです。

今回の活動は地主さん同士の境界となる柿の木の枝打ちの許可と残す木について目合わせをいただき、奥の針葉樹３本を伐倒するための準備として柿の木の枝を打ちと周りの下草刈りを行いました。

8月にはとなりの畑に作物が植わるため、来月で課題となっている伐倒を完結させます。

できる限りきれいにして、歩いて行く人が気持ちよくなるようにしていきたいと思います。

8月は我々の活動を広めるためのオリエンテーションとしてキャンプを相模湖で実施していきます。（8月31日、9月1日に実施予定）

夕方には、緑のダム北相模の総会に出席させていただき、ForesTo Classの活動方針と年間のスケジュールについて発表しました。

少しずつですが今期の目標である、小原登山道の整備、森林イベントの開催、木材の有効方法の情報収集と企画立案について進めていければと思います。

滝澤　康至（ForesTo Class）

【若者の森づくり】Foresto Nova

午前中は嵐山撤退作業でモマハウスの解体を行いました。構造は何となくは分かってはいたものの壊すのはかなり大変で、屋根を外してから壁の木材を外すのはあきらめて先に壁を壊してから倒して壊すことにしました。小屋を倒すまではよかったのですが屋根に張ったゴム板をはがすのに苦労しました。これからそのゴミを捨てることになることを考えると大変だなと思いました。

午後はForestNova☆の新しい活動地の下見を兼ねて、小原で計測作業をしました。斜面が急で測量の器具を設置するのが大変でしたが怪我もなく無事にできてよかったです。午後の作業に手間取って時間がかかってしまい総会に途中から出ることになり、申し訳ありませんでした。

ForestNova☆は去年、間伐材の活用を目標に活動してきました。環境まつり、大学祭などで間伐材を使った木工体験を行い、自然に触れる機会を一般の方に提供し、自分たちの活動を紹介していきました。今年は自分達で間伐材を使ったモノづくりに取り組みたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

五味　輝史（Forest Nova）

【報告１】第17期通常総会

6月第３日曜日の活動後に、県立相模湖交流センターにて通常総会を行いました。昨年度の活動報告、収支報告、来年度の計画、予算、役員人事の交代など全ての議案について全会一致で承認いただきました。

【報告２】CONE自然体験活動推進協議会全国フォーラムで事例報告

6月29日土曜日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて同全国フォーラムが行われました。その中で、自然を楽しむ、という視点で本会の森づくりの取り組み、若者たちがどのような思いで活動しているのか、ご紹介してきました。他のパネリストの方とも交流でき、有意義な会になりました。　　宮村　連理（本会、副理事長）

【事務局から】

国土緑化推進機構、都道府県緑推推薦事業（子どもたちの未来の森づくり事業）に知足の森定例活動が採択されました。ご支援ありがとうございます。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
　　積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
　　東京学芸大学環境教育研究センター、
　　（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

緑の募金

SEKISUI HOUSE
MATCHING PROGRAM

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。